風が通り抜け 子どもたちの足音が響く “湘南町家”の暮らし

藤沢市・S邸

温暖な気候で人気の高い湘南地区。
その一角に土地を得た夫妻は、町家の趣をもつ家を望み、
伝統的な家づくりを行う地元の工務店とタッグを組んだ。
長い敷地を巧みに使いこなした新居が完成、5人家族はゆったりと毎日を送る。

文＝角丸泰子　写真＝輿水 進

右／リビングはすっきり。正面の開口部の先に中庭が延びる。　左上／外観。少し赤みを帯びた外壁が温かな印象。　左下／縁側で子どもたちが何やら相談中。

あえて旗竿敷地を求め、家を建てることにした

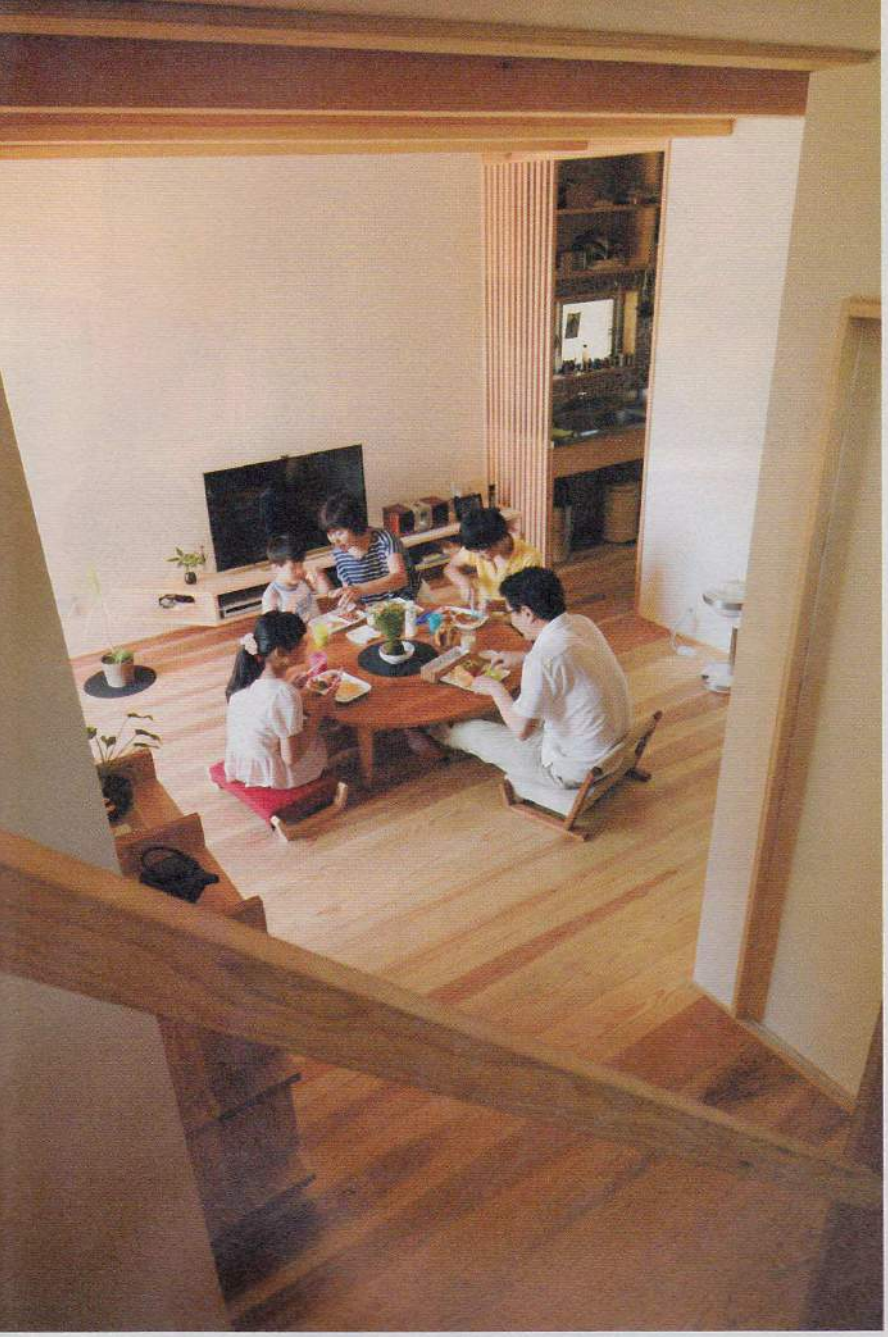
藤沢市の閑静な住宅地に建つSさん一家の新居。玄関が道路から少し奥にあり、生け垣沿いの小道を通って入るのも楽しい。以前の住まいも近く、同じ区域で土地を探すかたわら、インターネットや雑誌で地元の工務店に関する情報を集めていた。その過程でワイズに出会ったと、ご主人が振り返る。

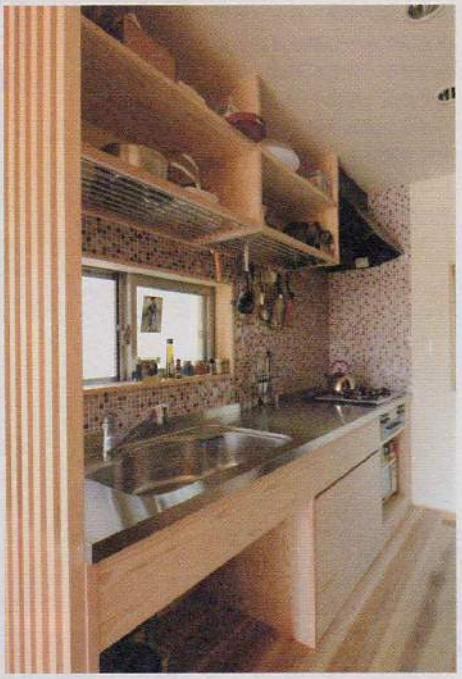
「この会社に決めたのは、木摺漆喰で壁をつくる、結露を生じさせる金物を極力使わない、といった伝統的な家づくりをされているのに惹かれて。それと、いろんな活動を通して地域に貢献する姿勢に共感したこともあります」。

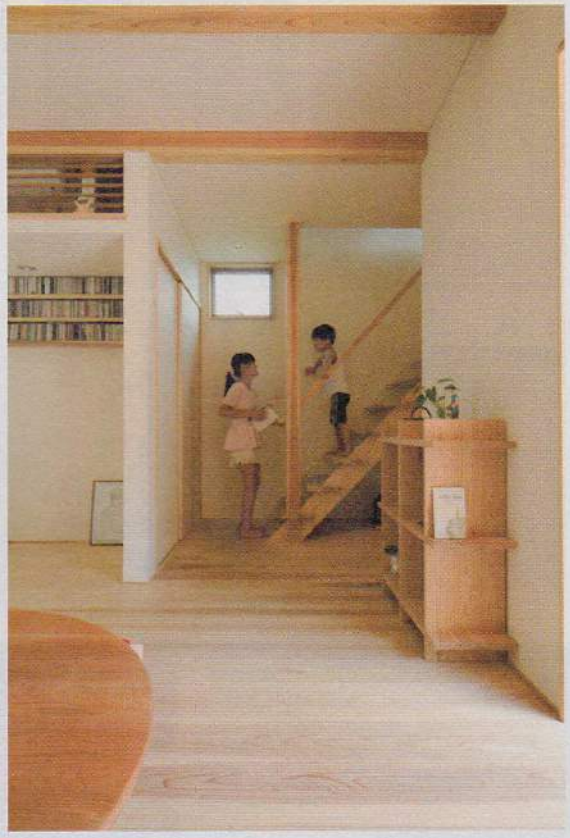
昨年5月、同社の力添えで見つけた土地は南北に長い旗竿地、しかも家が建てられる有効敷地は24坪弱。不利な条件とみられがちだが、設計の観点からはむしろ願ってもない立地だったと山本康彦社長が言い切る。その言葉にご主人の迷いも払拭されたそうだ。

打ち合わせで伝えたのは、町家のような雰囲気にということが第一。また、1階に縁側、2階に部屋と一体のバルコニーをリクエストした。それ以外には具体的な話をほとんどしなかったにもかかわらず、上がってきた図面には夫妻

上／リビング。右側のキッチンは水まわりとつながり家事動線もいい。　下／中庭にテーブルを置いてアウトドア・リビングとして活用している。







右上／子どもと一緒に作業できる大きなキッチン。食品庫、勝手口が裏に。　上・右下／階段もリビングの一部。階段下に設置したペレットストーブ（71ページ左下写真）が家全体を暖める。

の思いがきちんと汲みとられており、信頼が深まったと二人は口をそろえる。山本さんは、次のように話す。

「私たちは、環境や立地に合わせたうえでお客さまのテイストを設計に反映させるよう心がけています。Sさんは町家ふうにと望まれましたが、敷地の形状からもそれが最上の選択でした」。

8カ月の工期を経て今年5月に家が完成、5人家族の暮らしが始まった。

1階はリビング・ダイニングを中心に半独立のキッチンと水まわりが隣接。2階には主寝室と子ども室、ホールを設けた。子ども室は、いずれ子どもたちが巣立ったら仕切りを取り外すなど、空間をフレキシブルに使える。

玄関から中庭、リビングへ ゆるやかに空間がつながる

「町家」という住まい手の願いに対し、つくり手の山本さんが出した〝解〟が、敷地に沿って玄関・中庭・リビングとそれぞれ異なる空間がゆるやかにつながるプランニングではないか。道路側に突き出て目隠しの役を果たす玄関からL字型の縁側をもつ中庭へ、さらにリビングへと導かれる。内と外の世界がさりげなく仕切られ、中

3点とも／2階。バルコニーは屋根付きで部屋の延長のような空間。日差しが壁に当たって反射し室内を照らす。ホールはいずれ一部を仕切り次男の部屋にする予定。寝室は和室。隅にご主人の書斎コーナーがある。

庭を囲むように生活空間がのびやかに広がる。

入居して半年足らず。日々の過ごし方も変わったと奥さんが笑顔になった。

「3人の子どもたちは、かくれんぼをよくするようになって。裏の勝手口から出て表に回ったり、1階も2階も庭もすべて遊び場なんですよ(笑)」。

一方、ご主人は足を踏み入れた瞬間、屋内の空気がカラッとしていると感じ、材料の選択と工法がうまく噛み合っていることがイメージできたという。

なお、同社が得意とする木摺漆喰とはパネル状の杉板の上に砂漆喰を塗って壁の下地をつくる、古くからの工法。

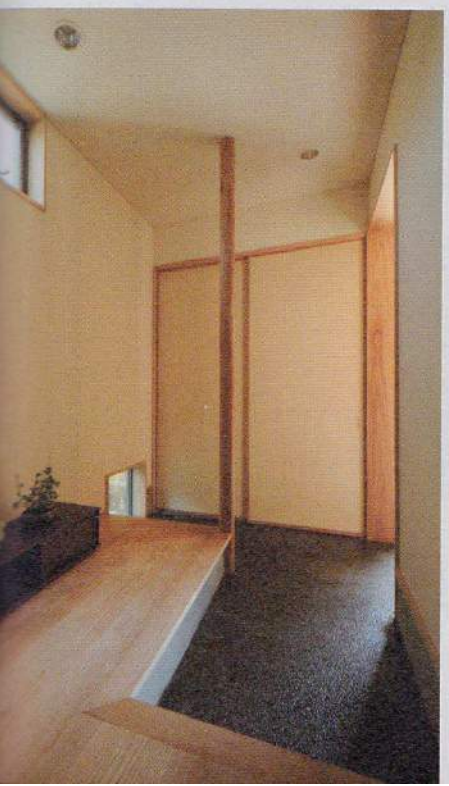
「壁面強度が増すだけでなく壁を通して屋内の湿気を外へ逃がす『透湿性』にもすぐれています」と、山本さんは胸を張る。海風が強く湿度のコントロールが欠かせない湘南の気候を熟知した同社らしい手法といえるだろう。

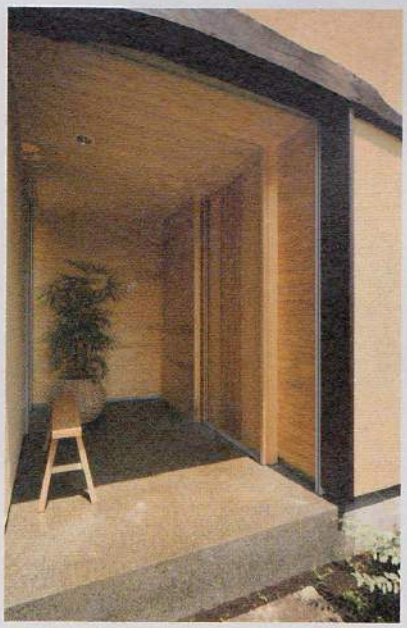
木は、埼玉県の山から直に仕入れる西川材。国産の天然乾燥材へのこだわりに応えてくれる、近場の材だ。柱は檜、梁は杉。床も杉を張った。

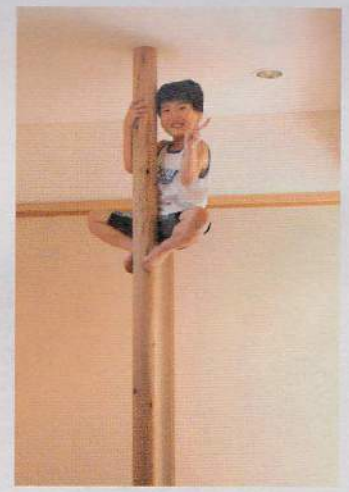
先述した通りS邸は敷地が長いが、周囲の家との間もかなり空いており、風が抜けるのも特色。それが開放感をいっそう増しているのは間違いない。

「この家は家族一人ひとりが居心地のいい場所を見つけられる。リビングは皆で集まる場だけど、子どもがバルコニーで読書したり、僕は縁側で仕事することもあります。限られた土地では空間の使い方を決めないことが大事。自分の気持ちいい場所を自分でつくるというのが、我が家の暗黙のルールといっていいかもしれません(笑)」。

ご主人が、愉快そうに締めくくった。



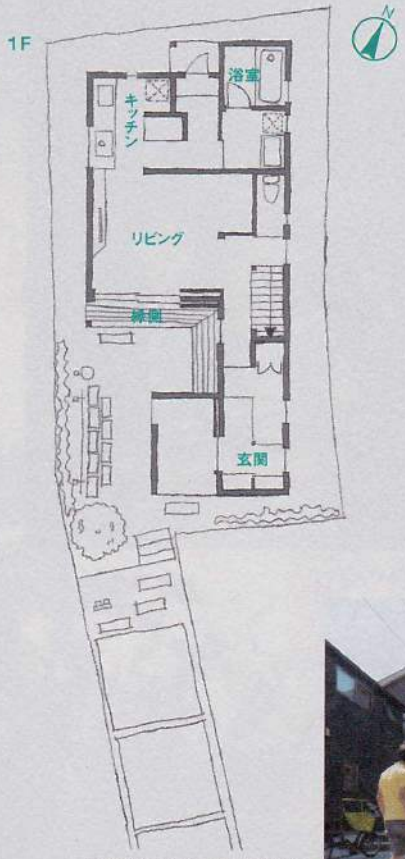


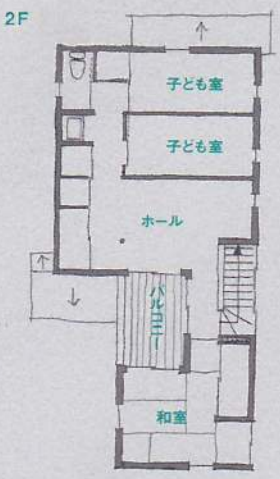


右／次男は柱を登るのが得意。　中／玄関。ケヤキの古材がアクセントに。　左／玄関ホールはゆったりしたつくり。壁の一面は和紙貼りの収納だ。

縁側でくつろぐSさん一家。いつも素足で過ごす。

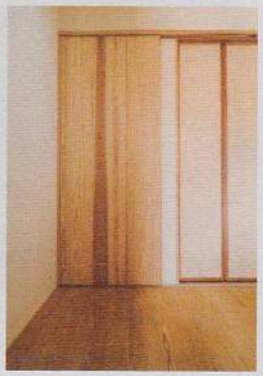
DATA
所在地：神奈川県藤沢市
家族構成：夫婦+子ども3人
敷地面積：146.00m²
延床面積：106.01m²(1階51.35m² 2階54.66m²)
竣工：2015年5月(工期 2014年9月～2015年5月)
設計・施工：㈱ワイズ
構造形式：木造2階建て
主な外部仕上げ：
屋根=ルーフィング平瓦葺き 外壁=木摺り +オリジナル土壁掻き落とし
主な内部仕上げ：
天井=漆喰塗り、杉板張り 壁=漆喰塗り
床=杉板





家の前に広がる庭も子どもたちの遊び場。旗竿地の弱点を逆手にとった。

部材を接合するのに金物を使わず、込栓を打ち込んで固定する。こうした伝統構法が同社の特色。木製サッシはオリジナル、洗面台や収納家具も大工の手づくりだ。無垢板の引戸やオリジナル土壁の外壁など、徹底した自然素材使いにもこだわる。

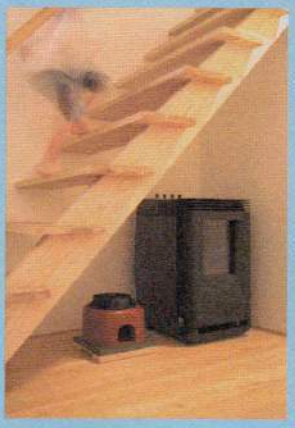


ワイズこだわりの木摺漆喰。15×30㎜の杉材パネルを下地として、左官を施す工法のことで、壁面強度が上がり耐震性が増すことなどから近年再評価されている。山本さんはさらに高い透湿性と耐火性・耐カビ性能にも注目。ワイズでは下地の杉板も国産材を使い、砂漆喰や土壁は自然由来の素材のみを使用している。（写真提供／ワイズ）

「ものづくり工房 湘南村」で地元を元気に

木や土といった身近な自然素材。先人より受け継いだ家づくりの知恵。その良さを地元の方々と楽しみながら学ぶことができないか……そんな思いから「ものづくり工房 湘南村」を始めて3年。年に4回ほど開催するワークショップでは、泥団子や漆喰のかまどなどをつくり、子どもも大人も楽しい1日を過ごす。

企画・運営するのは、湘南を拠点にこつこつと住まいづくりに携わる職人たち。さまざまな分野の技術と知識をもつ"専門家"の話を聞いたり技を教わったり、「面白い！」と目を輝かせる子も多い。こうした活動を通して住民の交流を盛んにして、地域コミュニティづくりの役に立ちたい、というのが土地に根を下ろす工務店であるワイズの望みだ。



ワークショップはいつも大にぎわい。参加者は壁塗り体験、かまどづくりなどを通して土という素材の魅力に触れる。今回は常滑式の「光る泥団子づくり」で子どもたちが左官技術を体験。「漆喰かまど」はSさんのお宅にも置かれている（左写真）。
（右3点写真提供／ワイズ）

お問い合わせはこちら
㈱ワイズ 〒253-0021 神奈川県茅ヶ崎市浜竹3-4-64 ☎0467-88-3903 http://www.ys-no1.co.jp 【資料請求番号 0003】